

# B-1 : 研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月19日（水曜日）15:50-17:20 401(4階)

## 個に焦点を当てた研究力分析と研究の発展性

本セッションでは、個に焦点を当てた研究力分析という観点から、新たな科学を切り開くような研究者、成果を創出する研究者が有する能力、経歴とはいかなるものかを、「チームサイエンスの科学 (Science of Team Science: SciTS)」「SciREX 政策形成インテリジェント支援システム (SPIAS)」の2つの取り組みの紹介を通じて議論します。研究IRは、組織としての研究力を分析する活動として、大学・研究機関の経営において意義あるものと認識されています。組織としての研究力分析が重要である一方、研究を実際に実施するのは個別の研究者であることから、個別の研究者に焦点を当てた研究力の分析という視点も同時に重要なものと考えられます。

セッション前半では、個別の研究者に焦点を当てた研究力の分析も重要であるという観点から、欧米で展開されている「チームサイエンスの科学 (Science of Team Science SciTS)」が示す分野連携、分野融合を実現し新たな分野を切り開くような研究者の研究力についての考え方を紹介するとともに、政策のための科学 (SciREX) 事業で開発が行われているSPIASにおいて、多様なデータをつなぎ合わせることで見えてくる、社会にインパクトを与える研究を行う研究者の特徴についてのケーススタディを紹介します。

セッション後半ではフロアに開いたディスカッションを行います。紹介する2つの取り組みから得られる知見がURAの研究者支援(や育成)に活かすうのかをフロアとともに議論します。将来伸びる研究者はどういう人か、翻って研究者にどのような能力を身につけてもらうことが新たな研究領域を切り開く力になるのか、次世代研究者の発掘・創出にURAとしてどのように関わりうるか、参加者には様々な気づきを得る場所となることを期待します。なお、両取り組みは発展途上のものですので、それぞれの今後の展開に向けて参加者からのコメントが寄せられることも期待します。

## オーガナイザー



矢吹 命大 : 横浜国立大学 研究推進機構  
特任教員(准教授) / リサーチ・アドミニストレーター

筑波大学大学院人文社会科学研究科国際政治経済学専攻単位取得退学。修士(国際政治経済学)。2012年4月より筑波大学大学院人文社会科学研究科国際公共政策専攻特任研究員として大規模科学プロジェクトを巡る国家間関係の研究に従事。2014年4月より現職。専門は国際関係論。URAとしては科学技術政策動向調査、研究IR、競争的資金獲得支援、サイエンスカフェ支援、競争的資金データベース開発などを担当。



野水 昭彦 : 情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設  
データサイエンス推進室 室長 / 上席URA

企業の半導体研究開発部門出身。2007年4月より2016年3月まで科学技術振興機構にて、さきがけ領域担当、さきがけ技術参事等を歴任、戦略目標立案、研究領域設計等に関与。(主に情報分野、数学分野)2014年3月より大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構に勤務。現在は、データサイエンス推進室長および本部上席URA。また、科学技術振興機構CRESTおよびさきがけの領域運営アドバイザーを兼務。

## 講演者

王 戈 : 科学技術振興機構・  
社会技術研究開発センター・アソシエイトフェロー

2012年お茶の水女子大学博士後期課程退学(社会心理学)。2014年科学技術振興機構入社、領域設定、NPO調査等の業務を経て、現在社会技術基礎調査を担当。それまで、大学で常勤・非常勤研究員歴9年、心理学非常勤講師歴4年、教育研究支援専門職員歴1年。2016年より、トランスディシプリナリティ、チームサイエンスの科学等、21世紀の科学の在り方を検討するテーマに関心を持っている。

佐々木 達郎 : 政策研究大学院大学・  
科学技術イノベーション政策研究センター・専門職



政策研究大学院大学専門職早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター  
招聘研究員経営管理修士(MBA)・中小企業診断士東京大学大学院修了後、  
電子顕微鏡技術者としてナノテクノロジー分野(半導体・液晶・LED等)の研究開発に携わる。企業でのイノベーションと技術経営に関心を持ち、早稲田大学大学院でMBAを取得。現在は科学者の研究が社会にどのようなインパクトを与えるかという影響評価の研究に従事している。